

NVIDIA GRID の導入
によって、社員の仮想
デスクトップ環境が飛躍的
に改善！新 VDI 基盤で実現
した生産性の向上





Web ブラウザ、および業務アプリケーションの安定性とパフォーマンスを向上させるグラフィックスアクセラレーション (GPU)

NVIDIA GRID® 導入の理由

- > VDIパフォーマンスを約 10 倍 向上
- > 一貫した、優れたユーザーエクスペリエンス
- > Windows 10 でのグラフィックス需要増加に対応
- > 情報システム部の作業やヘルプ対応負荷軽減

イントロダクション

ハーゲンダッツ ジャパンは、米国のアイスクリームブランド Häagen-Dazs の日本法人。日本におけるプレミアムアイスクリームのパイオニアである同社は、1984 年デパート、高級スーパーでパイントの販売をスタート。現在、ハーゲンダッツ ジャパンは、多様なマルチメディアを備えた Web サイトや、テレビCMなどを通じて、高級感あるブランドイメージをビジネスパートナーと消費者にアピールしている。

ユーザー профиль



組織名
ハーゲンダッツ ジャパン
株式会社

業界
製造業

地域
日本、
東京

設立
1984 年

社員数
300 人

Web サイト
www.Häagen-Dazs.co.jp



概要

- > ハーゲンダッツ ジャパンでは、米国のブランド Häagen-Dazs の日本法人としてプレミアムアイスクリームの製造を行っている。
- > 5年前にVDIを採用しているがVDI環境では動作が重く、Webサイトのコンテンツがリッチになるにつれ、スムーズに表示されることが困難になっていた。Microsoft Officeのパフォーマンスも劣化した。
- > ハーゲンダッツ ジャパンの情報システム部は、NVIDIA GRID®を活用したVDIインフラ基盤を新たに導入した。

導入ソリューション

VMware vSphere、VMware vSAN
NVIDIA GRID® Virtual PC [vPC] 6.1

導入ハードウェア

サーバ: HPE ProLiant DL380 Gen10

GPU: NVIDIA® Tesla® M10

チャレンジ

ハーゲンダッツ ジャパンは、1980年代半ばにプレミアムアイスクリームの概念を日本に持ち込んだ。同社は瞬く間に成功を収めたが、そのカギとなったのは、現地調査とともに、日本の消費者が好む、日本市場向けのアイスクリームの開発であった。このようなアイスクリームに対する画期的な取り組みにより、同社は過去30年のあいだ、日本の高級アイスクリームのマーケットをリードしてきた。

ハーゲンダッツ ジャパンは、広いブランド認知を背景に、多様なマルチメディアを備えたWebサイトを通じて、高級感のあるブランドというイメージの訴求に推進していった。同社はこの時期より自社製イノベーションにこだわる方針を転換して、仮想デスクトップ環境の導入、全社員のデスクトップ環境とIT管理を刷新した。ハーゲンダッツ ジャパンはVDI導入により、ITの近代化を成し遂げる一方で、新たな課題に直面することになった。

最大の課題の1つは、社内から自社Webサイトへのアクセスが大幅に遅くなってしまったことであった。「洗練されたWebサイトは、当社の事業の中核を成すものです。Webサイトでは、アイスクリームの味見はできません。しかし、動画やアニメーションは、当社商品の高級感を伝える重要なメディアです。Webサイトを利用するには、消費者だけではありません。当社の営業担当者たちも、ビジネスパートナーとの会議中にアクセスします。当社には、Webサイトを定期的にアップデートするチームがあり、社員はWebサイトで商品情報をチェックします。残念ながら、VDIでそれを確認することは、事実上不可能だったのです」と情報システム部マネージャーの竹下新一氏は話す。

ブランド認知はハーゲンダッツ ジャパンにとってきわめて重要であり、Webサイトの表示速度が遅いということは、そのブランドイメージを壊すことにつながりかねない。「販売会議でWebサイトの表示が遅いと、オフィスの外でもいつも遅いと思われてしまします。数年間にわたって、VDIの低パフォーマンスは、Webサイトへのアクセススピードの鈍化をもたらし、さらに生産性の低下も招きました。また、ブラウザの表示速度、ExcelやPowerPoint、OutlookといったMicrosoft Officeなどの業務アプリケーションでもパフォーマンスの劣化が顕在化していました。アプリケーションの安定性が損なわれる一方だったため、昨年、ハーゲンダッツ ジャパンでは、仮想デスクトップ基盤をアップグレードするプロジェクトを始動しました」と竹下氏は話す。



「NVIDIA の仮想 GPU の導入前と導入後を比較してみると、パフォーマンスが大幅に改善されたことがわかります。NVIDIAによって、コンテンツ表示とレンダリングの速度がはるかに高速化されたことが明らかになったのです」

ハーゲンダッツ ジャパン
情報システム部
古閑勝一氏



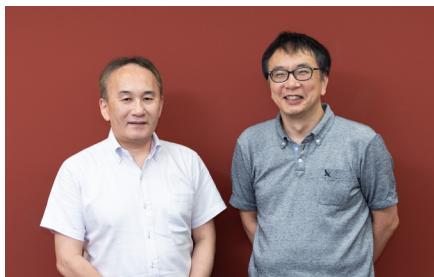
ソリューション

当初、プロジェクトの完了予定日は 2018 年 11 月とされていた。しかし、VDI のパフォーマンスは低下の一途を辿った。さらに、情報システム部では、グラフィックスが 30% 増加する Windows 10 へのアップグレードテストを開始したいと考えていた。2018 年初頭、プロジェクトを先に進めるために、同社のリーダーたちが取締役会と話し合い、プロジェクトの予定を前倒してもよいという承認を得た。その時点から情報システム部は、最良の仮想デスクトップ基盤のアップグレード方法に関して複数のベンダーとの協議を開始した。

ハーゲンダッツ ジャパンと協議していた株式会社ネットブレインズは、同社の WebGL ベースの Web サイトをユーザーが快適に閲覧できるようにし、さらに Microsoft Office のユーザーエクスペリエンスの改善のため、NVIDIA の仮想 GPU (vGPU) ソリューションの導入を提案した。同社は、ハーゲンダッツ ジャパンに対して 3 か月におよぶ概念実証 (POC) をを行い、NVIDIA GRID の導入が同期間の Web サイトのパフォーマンスを大幅に向上したことを立証した。

NVIDIA GRID は、Web サイト上のアニメーションを明瞭に閲覧できるようにすると共に、スムーズかつ一貫したエクスペリエンスを提供した。そして、NVIDIA GRID なしでは Web サイトの閲覧はきわめて困難になることを、POC を通じて実証した。「NVIDIA の仮想 GPU の導入前と導入後を比較してみると、パフォーマンスが大幅に改善されたことがわかる。NVIDIA によって、コンテンツ表示とレンダリングの速度がはるかに高速化されたことが明らかになったのです」と竹下氏は言う。

ハーゲンダッツ ジャパンは HPE DL380 Gen10 サーバを購入し、そのそれぞれに 1 つの Tesla M10 GPU を搭載して NVIDIA GRID vPC ソフトウェアを稼働させることで、全ユーザーの仮想デスクトップを加速化させることに成功した。Tesla M10 GPU は業界最高レベルのユーザー密度ソリューションとなっており、ハーゲンダッツ ジャパンでは、サーバ 1 台につきそれぞれが 512MB のプロファイルサイズを持つユーザーをサポートすることが可能になった。また近い将来 Win10 VDI のために各サーバへ Tesla M10 を 1 つずつ増設し、1GB のプロファイルサイズを利用することも可能だ。



「[Windows 10 に] 移行した際、NVIDIA GRID が著しい成果をもたらしてくれるものと期待しています」

ハーゲンダッツ ジャパン
株式会社
情報システム部マネージャー
竹下新一氏

今後を見据え

2018年7月、ハーゲンダッツ ジャパンは、NVIDIA GRIDを利用したWindows 10 VDI環境テストについてのNVIDIAとの打ち合わせを開始した。「2019年にWindows 7からWindows 10へのアップグレードを実施した後、NVIDIAの仮想GPUリソースをより効果的に利用できるようになるでしょう。テスト環境でのMicrosoft Officeなどの業務アプリケーションのパフォーマンスを見るのが楽しみです。Windows 10に移行した際、NVIDIA GRIDが著しい成果をもたらしてくれるものと期待しています」と竹下氏は述べていた。

NVIDIA仮想GPUソリューションの詳細についてはこちらをご覧ください。

www.nvidia.com/virtualgpu

www.nvidia.com



リザルト

NVIDIA GRIDを活用した新しいITインフラストラクチャは、ユーザーの日々のエクスペリエンスを大幅に向上させた。ビジネスパートナーに自社のWebサイトを見せる、あるいは製品情報をチェックする際のパフォーマンスは高速化され、自社Webサイトの信頼性向上に寄与した。「パフォーマンスは、少なくとも10倍向上しました。Webサイトの製品ページをロードするのに、本当に長い時間がかかっていたのです。今では情報にアクセスするのも簡単になりました。アップグレードの際に他のリソースのパワーも増強しましたが、導入前と導入後を比較したPOCにより、パフォーマンスの大幅な改善は、NVIDIA仮想GPUが大きく寄与していることが立証されています」と竹下氏。

グラフィックスにより高速化されたVDIで、ユーザーはMicrosoft Officeなどの業務アプリケーションで卓越したパフォーマンスを発揮することもできる。竹下氏は次のように話している。「社員はたくさんのリソースを同時に利用・消費しています。5つから6つのブラウザタブを開き、Excelのスプレッドシートを2つから8つ程度開き、さらにPowerPointと電子メール、20の異なるウィンドウを展開させているのですから、これまでリソースが不足していたのは明らかです。しかし、スタッフは、現環境で提供される512MBのプロファイルサイズによって、作業の種類に関わらず、優れたパフォーマンスを享受することができるのです」

情報システム部も、アップグレードされた環境による恩恵を受けている。「5年前に最初の仮想デスクトップ環境を導入したとき、当初の3か月は昼も夜も休みなく働かなければなりませんでした。ユーザーからの質問や苦情が殺到したからです。今回インフラストラクチャを更改し、NVIDIAの仮想GPUを導入した結果、トラブルがまったくありませんでした。とてもスムーズに移行できたのです」

ユーザーのヘルプデスクへの問い合わせ、質問、課題の減少が、トラブルシューティングに費やす時間を大幅に削減した。「私は、日本の鉄道システムに例えています。日本の通勤電車は、時間に正確なので有名です。みんなが、それを当然のことと受けとめています。しかし、遅れがあると、たくさんの不満が寄せられます。現在、当社のVDIシステムが安定して運用されているため、ユーザーからの不満の声は少なくなりました」と竹下氏は言う。